

# 特 別 活 動

## 1 特別活動の教育課程の編成

### (1) 特別活動の構成

特別活動は、従来、「ホームルーム活動」「生徒会活動」「クラブ活動」及び「学校行事」で構成されていたが、この度の改訂により、「クラブ活動」が廃止され、「ホームルーム活動」「生徒会活動」「学校行事」により構成されることとなった。

### (2) 編成上の留意点

特別活動については、指導上極めて弾力的な取扱いが可能であり、学校の創意工夫の余地の広い教育活動である。したがって、各学校においては、自校の教育目標との関連を図りながら、学校、地域、生徒などの実態に即した具体的な特別活動の指導の重点を定めて教育課程上の位置付けを明確にし、各学校の特色を生かした特別活動の目標を設定して、創意工夫を発揮しながら豊かな教育活動を進めることができるよう教育課程の編成に努めることが必要である。

### (3) 特別活動の授業時数

#### ア ホームルーム活動

ホームルーム活動は、人間としての在り方生き方に関する教育において、中核的な役割を果たすことが期待されていることから、「原則として年間35単位時間以上とする」ことが必要である。

これは、年間35単位時間という授業時数を最低限確保するとともに、ホームルーム活動の充実を図るため、さらに必要に応じて年間35単位時間を超えて授業時数を配当できることを示すものであり、学校や地域、生徒の実態や発達段階等に応じて、年間35単位時間以上の授業時数を適切に定めることが肝要である。

また、ホームルーム活動については、特定の学期又は期間に行うことができる各教科・科目などの授業と異なり、年間35週行うことを標準として、毎週実施することが必要である。

このことは、ホームルーム活動が、生徒の学校生活への適応や人間関係の形成、健全な生活態度の育成などに資する活動であり、これらのねらいを達成するためには、教師と生徒の人間関係と信頼関係を築く場や機会を十分に確保し、生徒の学校生活への適応とその生活の充実・向上を図ることの大切さを踏まえたものである。

#### イ 生徒会活動と学校行事

生徒会活動と学校行事については、課程・学科等によって教育活動の展開が多様であることから、これまでと同じく「学校の実態に応じて、それぞれ適切な授業時数を充てる」ことが必要である。

その際、生徒会活動については、生徒の自主性、社会性の伸長に深く結びつく活動であり、教師の適切な指導の下に、ホームルーム活動との関連も図りつつ、活動に必要な場と機会を年間を通じて計画的に確保することが大切である。

また、学校行事は、体験的な活動を通して、特別活動の目標を達成していく学校全

体の教育活動であることから、各教科・科目との関連を図りつつ、創意工夫を発揮して適切な授業時数を充てることが肝要である。

## 2 指導計画の作成

### (1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

指導計画の作成に当たっては、まず、各学校の教育目標や指導の重点を生かした特別活動の全体構想を明確にすることが必要であり、各学校においては、この全体構想に基づいて、特別活動と各教科・科目や総合的な学習の時間との関連、特別活動の各内容相互の関連、学年間の関連などを図り、特別活動の全体計画を立案することが大切である。

その際、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、教師の適切な指導の下に、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすることが重要である。また、ボランティア活動や就業体験など、勤労にかかわる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れるとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用を工夫するなど、豊かな教育活動が展開されるよう配慮することが大切である。

### (2) 第1学年「ホームルーム活動」の指導計画(例)

学期	月	日	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定 時数	留意事項
1	5	17 24	1 適性の理解と進路情報の活用 2 主体的な進路の選択決定と将来設計	1 自己理解と職業調べ 2 ライフプランの作成と進路計画の立案	・希望する進路との関連において、自己の性格、職業的な能力・適性、興味・関心等について理解を深めさせる。 ・将来の生き方や生活について資料を基に考えさせるとともに、先輩の講話を聞いて、進路希望を実現するための課題と課題解決の方策などについて考察させる。	2	・進路指導室や図書室を活用し、十分な資料を用意するとともに、諸検査結果の活用等を図る。 ・学習用ワークシートを準備して記入させ、自己評価や進路相談の資料として活用する。
		14 21	ボランティア活動の意義の理解	1 ボランティア活動の意義についての意見交換 2 可能な活動機会についての話し合い 3 学校行事実施にかかわる事前指導	・ボランティア精神の涵養を図り、自発的な参加への意欲を高めるとともに、ボランティア活動の方法等についての啓発を図る。 ・学校内や地域等における可能な活動機会について考えさせる。 ・学校行事としてのボランティア活動の目的を理解させるとともに実施に当たっての留意事項を周知徹底する。	2	・身近な体験談をもとに討論を行うとともに、地域住民から高校生ボランティア活動への期待についてアンケート調査を行うなどして、実践意欲を喚起する。 ・健康で安全な活動の実施に配慮する。
2	9	7 14 21	社会生活における役割の自己責任の意識の涵養	1 集団生活・社会生活におけるルールやマナーについての考察 2 社会生活と自己責任についての考察	・社会生活上のルールやモラルの意義について考えさせる。 ・正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他を思いやる心の大切さについて理解させる。 ・社会生活における自己責任の在り方について、身近な問題を通して考察させ、自由と責任、権利と義務などの関連について考えるための基礎的な力を養う。	3	・新聞及びビデオの資料に基づき、ディベートを行い、活発な意見交換を行わせる。 ・携帯電話の使用や乗車マナー等の身近な話題も取り入れ、生徒の意識を喚起する。 ・ディベート時の状況を観察法により評価し、総合的な評価に生かす。

### 3 評価の工夫

#### (1) 評価の基本的な考え

特別活動の評価については、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を客観的に評価し、生徒の自己理解と意欲の向上を図り、また指導の改善・充実に生かすこと」が必要である。

これは、各教科・科目とも共通するものであるが、このことを踏まえ、特に、特別活動においては、次の事項等に留意して評価することが大切である。

##### ア 個々の生徒の活動状況とその成長・発達の評価

評価において、最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を生かし、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性など生きる力を育成するという視点から評価を進めていくことである。

そのためには、生徒が自己の活動や生き方をしっかり振り返り、新たな目標や課題をもてるよう、指導の成果だけでなく指導の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に取り上げたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価できるよう協力体制を確立することが大切である。

また、生徒の自己評価や相互評価等の活用を図るなどして、生徒の活動意欲を喚起する評価の方法を一層工夫することが重要である。

##### イ 生徒の集団の状況とその発達の評価

「望ましい集団活動」は特別活動を成り立たせる基本的な条件であり、それはまた、特別活動の実践の過程を通して形成・発展されていくものである。その意味から特別活動においては、生徒の自主的・実践的な活動を通して「望ましい集団活動」を育成することが直接的な目標になる。

したがって、特別活動を通して、生徒の集団が発達し、より望ましい状態になっていく過程及びその姿を評価することは、特別活動の成果を評価することであるとともに、特別活動における指導の反省や改善に結びつくことから重要である。

##### ウ 指導体制等の評価

特別活動は、学校全体や学年で取組が進められることに留意し、ホームルーム活動など指導する各内容について、全教職員が評価の観点や方法、資料の収集などについて共通理解を図るとともに、評価にかかわる協力体制を整え、評価に関する情報等を教師間で共有して、学校全体での確かな評価を行うシステムを確立することが必要である。

このようなことから、年度当初に特別活動の各内容ごとに評価の規準を設定し、それらに照らして以後の生徒の活動状況をとらえることはもとより、指導体制の在り方などについても積極的に評価することを通して、教師が指導の過程や方法について反省し、より効果的な指導が行えるよう学校全体で評価の在り方について工夫・改善を図っていくことが大切である。

こうした評価を推進するに当たっては、指導計画の評価、指導方法の評価、指導内容の発展性や他の教育活動との関連性の評価、家庭や地域等との連携についての評価などの視点を、評価の計画に具体的に位置づけていくことが大切である。

(2) 評価方法の例

評価に当たっては、生徒の自己評価や相互評価を活用するなど、その内容や方法を工夫することが大切である。

① 学校行事における生徒の自己評価 (例)

活動を振り返って	
活動名	学校祭 _____ 年組番 氏名 _____
役割	<input type="text"/>
【4 大変よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった】	
1 自主的に取り組めたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
2 協調性をもって、取り組めたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
3 創意工夫して取り組めたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
4 . . . . .	
.	
.	
.	
8 クラス全員が責任をもって取り組んだか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
9 クラスは、組織的・計画的に取り組んだか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
10 活動を通して、クラスのまとまりはできたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
感想 (よかったこと、苦労したこと)	先生からのコメント
<input type="text"/>	( 印)

② ホームルーム活動における生徒の相互評価 (例)

グループ活動を振り返って	
活動名	進路の選択・決定 ( ) 班へ _____ 年組 ( ) 班
【4 大変よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった】	
・十分な調査が行われていたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
・発表では適切な資料が使われていたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
・発表の方法に工夫がなされていたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>
・グループ全員が協力していたか。 (4・3・2・1) (感想)	<input type="text"/>

#### 4 特別活動と総合的な学習の時間

問1 特別活動と総合的な学習の時間の実施に当たり、留意すべき点は何か。

総合的な学習の時間は、生徒に自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことを目的に、知の総合化の視点を重視し、既存の教科・科目、特別活動等の枠を超えた横断的・総合的な学習を実施できるようにするために創設されたものである。総合的な学習の時間での指導に当たっては、課題設定能力や問題解決能力、総合的な思考力・判断力や応用力・実践力などを育成する学校全体の取組が求められる。

特別活動は、望ましい集団活動や体験活動への主体的な取組を通して、生徒の全人的な成長をねらいとする教育活動という特質を持っており、そこには、「なすことによって学ぶ」という特質に示されるように、自他の生活を豊かにしようとする自主的・実践的な活動を通し、自己と他者、社会とのかかわりを深め、自己実現の力を高めるという固有性がある。

同時に、特別活動は、学校生活における基本的な人間関係形成の場であり、また、多彩な活動の展開を通して生活に潤いを与える時間でもあり、学校生活を成り立たせる基盤でもある。

したがって、特別活動と総合的な学習の時間の実施に当たっては、それぞれの目標やねらいの相違など、固有性を踏まえて指導計画を作成することが重要である。

問2 従来、特別活動で行っていた活動を総合的な学習の時間の活動として実施することは可能か。

特別活動と総合的な学習の時間は、それぞれ、異なった目標やねらいを持っていることから、これまで特別活動の中で行われてきた活動をそのままの形で総合的な学習の時間で実施することは望ましくない。

しかし、特別活動や総合的な学習の時間においては、各教科・科目で学んだことを活用し、現在及び将来の問題についての解決を図り、生活の場面に実践的に生かすことを特色としているなど、相互に関連する部分もあることから、実際の指導に当たっては、従来、特別活動で行ってきた活動を総合的な学習の時間として実施することも考えられる。

その際には、総合的な学習の時間のねらいや各学校における教育課程上の位置付け等を十分に踏まえ、活動内容の再検討や再構成を行うことが大切である。

また、総合的な学習の時間における体験的な学習、問題解決的な学習などの経験が特別活動の活動場面で生かされ、他方、特別活動で実践的、体験的に学んだことが総合的な学習の時間により現実的な意味を与え、充実させるという相互補完的で、相互還流的な関係（次頁の図参照）になるような工夫が必要である。

図 総合的な学習の時間と特別活動の相互補完・相互環流の概念図

